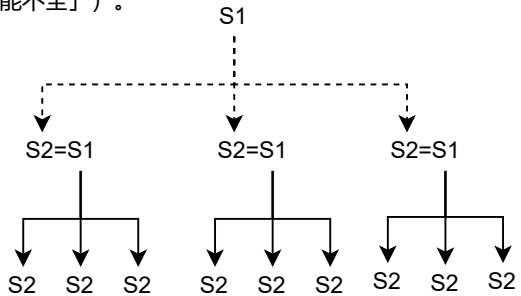


図11：エンジニアリングが持つダイナミズムからの疎外の結果2（不安と暴力）

\*Q  
(図10)

- \*1 社会において  
上位のS1が効力を失う場合がある  
(=「神の死」)  
(=「『父の名』の衰退」)  
(=「象徴界の機能不全」)。

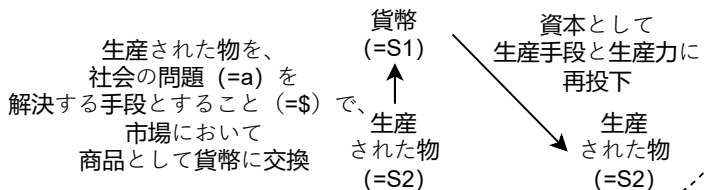


- \*2 資本主義社会において、  
社会を秩序付けるS1は「貨幣」である。

- \*3 貨幣が社会を秩序付ける力を持つのは、  
貨幣が「商品」と交換されるからだ。  
貨幣自体に力があるわけではない。

- \*4 商品とは、  
社会の問題 (=a) を  
解決する (= \$) と  
市場において  
銘打たれたものである。

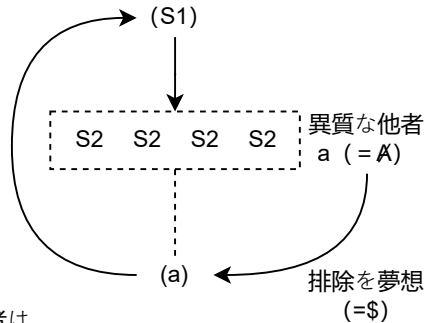
- \*5 資本主義社会において、  
人々は所有する貨幣を  
増大させる方向に秩序付けられ、  
貨幣を量的に増大させるために  
人々は貨幣を  
「生産手段」と「生産力」の購入に  
再投下し (=「資本の蓄積」)、  
さらに高価な商品を作ろうとする。



\*6

人は上位のS1が衰退すると、  
自身の理解を超えた行動パターンを取る  
異質な他者の行動 (=a) が、  
自身に危害を与えずに社会的に  
統御されるとは信じられなくなり、  
不安 (=A) になる。

本来的な  
状態の  
回復を  
夢想  
(=\$)



\*7

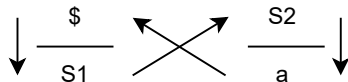
この不安において、異質な他者は  
「社会が本来的な状態になることを妨害している者」  
として理解されるようになり、  
その理解から逆転して  
「異質な他者を排除すれば  
社会の本来的な状態を回復させることができる」  
という幻想が生じる (=「レイシズム」)。

\*8

この幻想は、  
あたかも安寧な社会が実が可能であるかのように感じさせるものであるため、  
父性隠喩の確立と同じ効果を主体にもたすがゆえに、  
主体に強い満足感を与えることができる。

\*9

資本主義における人々の行動は、  
「資本主義のディスクール (右図)」  
によって記述できる。



\*10

資本主義において、  
人々は「労働者」あるいは「資本家」として貨幣や資本の増大を図る一方で、  
「消費者」としては、自身が抱える不満 (=a) を  
商品の購入 (=\$) により速やかに解消できる状況に置かれるため、  
神経症的な幻想や欲望を構築する際に現れたような  
自身の不満足の原因について思考する契機を奪われることになる。